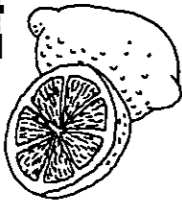


レモン通信



言葉のとらえ方 受け止め方

(匿名希望)

白根市に転居してから、もう7年になります。昨年古希を迎え、さまざまな面でお世話になり、感謝しております。さて、私の感じたことを一言、老人の繰り言と思ってお聞きください。

ある方が調査にこられたときのことです。「あんたはよそモンだから、云々」と、さりげなくおっしゃったのに、いささか抵抗を覚えたしだいです。

他の土地から移ってこられた皆様はどのようにお考えでしょうか。この地に生まれた方と、転居してこられた人とは、それぞれ受け止め方は異なると思います。

もちろん大勢の方が、このようなことをおっしゃるわけではございません。また、土地柄とは思いたくありません。私だけの偏見でしたら、どうぞご容赦願います。もう少し、温かみのある言葉はないものでしょうか。移り住んだ土地になじめず、いわし雲の心境です。

TALK & TALK

市民談話室

日ごろ考えていることや身の回りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただきますことあります。あて先は広報広聴係(〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画調整課)です。



小林 行雄
(白新町)

国道8号沿線 ポプラ並木の景観に

上は戸頭から下は神屋まで、国道8号の両側に植樹されているポプラ並木。これらは「グリーン・トピア・ルート8推進協議会」が、まちづくりを目的として植樹しているもの。地域起こしの起爆剤的存在として、順調に生育しています。

しかし、空閑地は花壇、菜園、雑草、空き地など、多種多様。受け止め方によっては、色彩豊かにも見えませんが、ばらばらという感じもします。そこで、他町村から市内を通って通勤する友人、知人十数人に、現実の姿に対する「景観アンケート」を試みました。それぞれ受け止め方に、若干の差異はありましたが、大半は植樹、花をいずれかに統一した方が、「美観であり、心が和むのでは」との結論でした。可能なら常緑樹が良いとのことでした。一口に統一と申ししても、経済的、労力的、その他の関係で実行は至難と思いましたが、ぜひ協議会で検討していただきたいと思っています。



鈴木 進三
(中大郷)

白根市の発展に 農工商のバランスを

何年前か、ある大学の都市研究者が、白根市に大変注目しているというところを、何かで読んだ記憶があります。それは白根市が農村型から都市型へ移行する上で、どのように変化していくのか、注目をしているということでありました。現に、全国の市町村中での発展指数からしても、白根市は上位にランクされているようです。

国から注視されている存在です。「生き生きとした白根市政の姿」を、市民の力で植えた、この「ポプラ並木」に反映させてやりたいと希求しているものです。



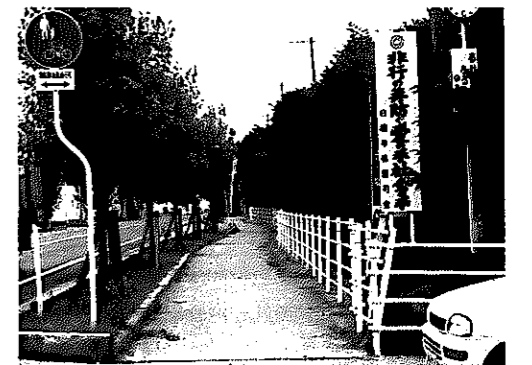
高野 マス
(瀬ヶ通)

健康こそ 自分の宝

七月十五日、下越婦人会館で婦人リーダー研修会がありました。「あなたならどうする? 高齢化社会を考える」というテーマで、私も聞いてまいりました。このテーマは、あまり目立たない地味なものですが、県婦連では草の根運動の一つとして取り組んでいるものです。講師の話の中では高齢化社会が進んでいるが、明日はわが身。地域では高齢化がどんな進み方をしているかなど、いろいろの話がありました。全国的に見ても高齢化は深刻なことが分かります。私は家に帰って、主人と二人でその内容を話しながら「私たちがそれなりの年齢(六十歳)だから、

現在、新潟東港からの環状線、白根バイパス、広域農道などの道路計画が作られており、また北部地区では宅地造成が着々と進行しております。これらの発展は望ましいことですが、残念ながら農地が犠牲になります。それは農家と十分な話し合いをし、納得できる進め方をしたいです。

また、もう一つ大きな問題として環境問題があります。特に広報しろねに特集されたように、汚水の問題が大きくクローズアップされるのではないのでしょうか。汚水の問題は市民一人ひとりにも責任があるようですが、行政に対しても早急な対策を期待します。



あまり無理をしない方がいいね」と言っておりました。

その二日後のことです。一生懸命に仕事をしてきた夫は、体の不調を訴え、医師から診断してもらいました。脳出血と診断され、即入院です。幸い三週間ほどで普通の生活ができる、ごく軽いものでした。これが手遅れになれば半身不随になるところだったと思うと、ぞっといたします。その間、私一人で田んぼ、畑、両方掛け持ちの作業はとても大変でした。会社に勤めている長男が、やったことのない農作業を朝早く起きて手伝ってくれたので、助かりました。六十歳はまだ働ける年であり、また、働いてもらわなければなりません。夫から急に倒れられ、いかに健康が大切であるか、私はつくづく感じました。私と同年代の市民の皆様、地域の皆様、健康には十分気を付けてほしいと思います。健康こそ自分の宝ではないでしょうか。



樋口 広志
(みの口)

白根祭り と 白根甚句

小生が子供のころの白根祭りを思い出すとこんなふうだった。

八月二十六日は宵祭りである。午後四時ごろ町内の灯ろうはしめ縄と酒だるで飾つたもので宮参りをするとその後回り灯ろうで飾り、みこしを迎えるに神社へ参る。みこしが金比羅社(今の厚生会館)へ到着すると、各自町内へ帰って盆踊りをする。小生は父と一緒に横町内の回り灯ろうを引き、疲れて家に帰ってきた。だれもいなくなった。家族は全員、盆踊りに夢中。しょうがないので、また町へ行き、盆踊りを見て夜を過ごしたものである。

八月二十七日の民謡流しに最近歌われている白根盆唄は、当時の盆踊りでは踊りが歌ったいわゆる側音頭である。現在、各町内を回っても、盆踊りはない。踊りのやり方が忘れられたらしい。八月二十八日は夜明かしに踊つたもの。その熱気が今の白根祭りにならないのが残念である。

市民文芸

俳句

原発の灯に読む記録原爆忌 山田 栄一
父の忌も同じ八月原爆忌 小野 義之
風の来てうねりにまかす稲の花 真鳥つぎえ
原爆忌いち日つけぬ耳飾り 間島喜代子
友と見しドームの思ひ原爆忌 小林 なお
反核のビラ新しき原爆忌 小林富沙子
埋立ての進む一角稲の花 塚本 静子
広島忌陽に焙られて兵の墓 名古屋蒼穹
稲の花忘れしままの泥鰌 間島 秀穂
(以上かまつか新飯田俳句会)
炭焼きの炭の風鈴下げし小屋 堀内ナナ子
行々子鳴いて三軒家といふ部落 成沢 素明
釣煮煮物分け合ふ小路かな 小林 光子
おつかひの駄賃じやらじやら夏帽子 和泉 伸子
留守居妻心に茅の輪くぐりけり 猪股 南魚
広がりし睡蓮の葉に風騒ぐ 安沢 飛浪
夏霧のどばり降りつつ旅終る 樋口 トシ
ゆらゆらと心もとなき初蜻蛉 古川 綾
千枚の青田見下ろす座敷かな 笠原 里津
(以上大風会)

短歌

鉢植の朝顔蕾ふくらみて 長谷川久二
水を与えり大輪の花咲く
身障の妻を支えて幾年月 小出熊四郎
怪我の恐怖を夢にまで見る
怪我をして一人佇み大空を 自由
自由を翔る鳥を眺むる
台風一過夏の気配のすてになく 小出よしの
出穂揃え得ぬ田をめぐり来ぬ 中村 京
絵日記に夏がなかった夏休み 米野 光雄
想い出が脳裏を走る遠花火 山岡 フミ
七色のペンキで議事堂塗り替える 今井 七郎
百態の欲を鎮める石を抱く 織田 福治
直線に矢が飛んできた不況風 織田 セツ
親の歯が抜けて息子が自立する 後藤マサノ
欲の無い羅漢の視野にいる余生 佐藤トミノ
吉兆を信じて朝の膳につく 佐藤 ヨキ
是非見たい今度は自民の牛歩劇 高橋祐四雄
山のような証書類に潜む悪 竹石 甚五
自販機が未成年者に酒を売る 田中 成子
罪ひとつ胸が乱れてくる闇夜 田村 恒夫
パチンコに行く間が取れぬ土井議長 中村 尚治
割引いてお世辞聞いているイヤリング 西条 ムラ
空港のロビーに並ぶし靴 早川 英男
年金で錆びたフライドが甦る 吉川 彰
恩に着て足の向きにも言い聞かせ 大井 義雄